

福岡視力 センターだより

第129号

令和8年1月1日

発行 福岡視力障害センター

〒819-0165 福岡市西区今津4820-1

TEL 092(806)1361 FAX 092(806)1365

ホームページ <https://www.rehab.go.jp/fukuoka>

印刷 株式会社エルシープリント

- 所長挨拶
- スポーツ訓練発表会
- 近年の卒業生の状況について
- 自立訓練の修了生紹介
－自立訓練を経て転職を実現－
- 地域貢献と実践力の習得の場としての臨床実習
－当センターにおける臨床実習の役割－
- 杉山和一のおはなし
－大きな足跡をのこした江戸時代前期の鍼治療師－
- 自立訓練（機能訓練）紹介
－歩行訓練編－
- 点字ブロックについて
－視覚に障害のある方々の安全を守る大切な存在－
- 令和6年度国家試験結果と進路状況
- 職員異動・新職員の紹介
- 利用者募集



就任あいさつ

所長 谷内 一夫

このたびご縁をいただき、4月より福岡視力障害センターの所長に就任いたしました。利用者の皆さん、職員の皆さん、関係機関の皆さんに温かく迎えていただき、日々感謝の気持ちでいっぱいです。

今年3月まで厚生労働本省にいたのですが、近年では高齢者福祉に関わる仕事が多かったです。高齢になっても認知症になっても自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けるための、「地域包括ケアシステム」の構築や、「共生社会実現のための認知症施策」の推進などに携わり、地域づくりの難しさと面白さを知りました。

着任後は、福岡での勤務が初めてということもあり、とりとめの無いつぶやきを「朝メール」として職員のみなさんにお送りしています。短い文章の中に、季節の移ろいや週末の出来事、失敗談やふと蘇った記憶を織り交ぜることで、一日のスタートにささやかな彩りを添えられたら…。そんな思いで綴っています。

仕事に関することでは、この半年で色々と良い経験をさせて貰いました。「みらいシネマ福岡」のユニバーサル映画上映を観たり、当事者団体の行事でパラ金メダリスト道下美里さんの貴重なお話や体験をお聞きしたり、福大医学部で解剖見学実習に立ち会わせていただいたり、センターのスポーツ訓練発表会でフライングディスク競技に参加して優勝したり(笑)。



スポーツ訓練発表会の職員チーム

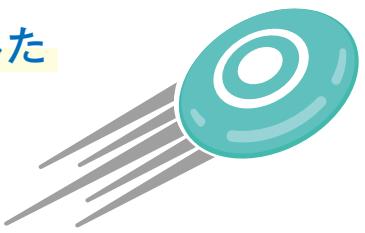
福岡視力障害センターは、訓練や支援だけでなく、出会いや発見の場でもありますね。

これからも皆さんと、季節や記憶や笑いを分かち合えるようなセンターを、一緒につくっていけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

スポーツ訓練発表会

利用者と職員が一緒に、スポーツで楽しく汗を流しました

6月24日(火)にスポーツ訓練発表会(前期)を開催しました。当日は、利用者と職員が参加して2競技(ゴールボール:4チーム、フライングディスク:5チーム)を実施しました。



ゴールボール



ゴールボールは予選を2位で通過した2年A組と4位で通過した合同チーム(自立訓練・研修コース・職員)との決勝戦となりました。1点を争う好ゲームの中、接戦を制した合同チームが優勝しました。

特に合同チームは予選4位から優勝に輝くなど、決勝トーナメントの全試合で1点差ゲームに勝利するなど勝負強さが際立ちました。



フライングディスク



フライングディスクは予選を1位で通過した3年A組と3位で通過した職員チームとの決勝戦となりました。4人の投球でも決着がつかず、どちらかに得点が入るまで試合が続けられました。

2巡目2人目(チームとしては6投目)の投球の結果、2対3で職員チームが優勝しました。



ゴールボールと同様に、フライングディスクの決勝トーナメントは、全て1点差の試合となるなど大接戦が繰り広げられました。全体練習の企画運営に携わった利用者自治会の皆さん、大会運営を担当していただいた職員の皆さん、そして、白熱した試合を繰り広げた選手の皆さん、本当にお疲れさまでした。

近年の卒業生の状況について

令和2年度から令和6年度に卒業された方々の状況についてご報告します。



卒業時の年代

過去5年間で就労移行支援(理療)を卒業された方は、男性18名、女性14名の計32名です。卒業時点での年代としては、20~60代と幅広い年代の方がいらっしゃいました。その中で、最も多い年代は50代、次いで20代という状況です。

■令和2~6年度の卒業生数(年代別)

年代別	男	女	計
20代	3	6	9
30代	3	2	5
40代	4	1	5
50代	6	4	10
60代	2	1	3
計	18	14	32

利用を開始される前の職業

高校・大学を卒業されてすぐに入所された方や、離職されてからの入所など、様々な経緯で入所されており、前職についても事務・医療・営業など、色々な経歴をお持ちの方々が在籍されておりました。

■令和2~6年度の卒業生数(利用前職業別)

職業別	男	女	計
専門的技術	7	4	11
事務	2	3	5
販売	0	1	1
運輸通信	3	0	3
製造土木	3	0	3
サービス	2	1	3
その他	1	5	6
計	18	14	32

さまざまな学習方法

視覚の状況も様々で、学習も墨字・点字・PCやタブレットを使用した音声操作、最近ではYouTubeやAIを活用した学習をおこなっている方もいらっしゃいました。センターとしても、それぞれの視覚やニーズに応じた支援を実施しております。

国家試験の結果

国家試験の結果については、毎年センターによりやホームページなどでも発信させて頂いておりますが、過去5年間では1つ以上の資格を取得された割合は93.8%です。また、惜しくも現役での合格に至らず、再理療教育を受講されて再チャレンジされた方々の合格率は83.3%でした。

■令和2~6年度の国家試験結果(現役)

資格別	受験者	合格者	合格率(%)
あマ指師	31	29	93.5
はり師	31	21	67.7
きゅう師	31	22	71.0
1以上の資格	32	30	93.8

注1 「あマ指師」のみを受験された方:1名

注2 「はり師」「きゅう師」のみを受験された方:1名

卒業後の進路と支援

卒業後の進路については、2025年7月現在で最も多いのは「ヘルスキーべー」の10名です。もともとヘルスキーべーを雇用している企業もありますが、まず卒業生を一名雇用してヘルスキーべー部門の立ち上げから行うという企業もありました。

次いで多いのは「開業」の5名です。卒業後、数か月から1年程度の開業準備期間を経て開業された方や、治療院などである程度臨床経験を重ねてから開業された方など、ご自身のキャリアプランにより開業に至る道のりも様々あるようです。

センターとして、国家試験合格を目指すことも含め、再理療教育による再受験の支援、就労に向けた就職活動や職場開拓などの支援も継続しておこなってまいります。卒業生の皆さんにおかれましては、就労につながるような情報提供や同職種の後輩へのアドバイスなど、引き続きご協力を頂けると幸いです。



追手風部



自立訓練を経て 転職を実現

自立訓練の修了生紹介

くわぞの かよ
桑園 佳代さん

ひとし
◀桑園さんと日翔志関

突破口を求めて

私は令和6年の8月～11月の4ヶ月間、毎週3泊4日でセンターに通い自立訓練を受けました。

50歳を過ぎて網膜色素変性症の病気が分かり、視野の中心部分に欠損が広がり文字の読み書きが難しくなりました。また微妙な色の違いを見分けることができなったためパンフレットや地図を見ることが厳しくなり、長年携わってきた旅行業を続けてゆくことに行き詰りました。

先の見通しが立たず、転職する勇気も持てず悩む中、突破口を求めてセンターの扉をたたいたのです。

多彩な訓練科目

訓練の多くはマンツーマンで行われ、先生方は一人ひとりのニーズに合わせ、とても丁寧な指導をしてくださいました。

多彩な科目の中で私が特に重視したのは、音声によるPC操作と拡大読書器を使った読み書きの練習。これは保有視力を活かすためのロービジョン訓練のひとつでした。

また、今後の視力低下を見据えた白杖訓練や点字学習、裁縫や調理などの生活訓練なども将来への不安を解消し、より安全で豊かな暮らしを送るためにとても有意義な学びでした。感覚訓練や美術工芸、体育などは、共に学ぶ仲間たちと一緒に過ごす楽しいひとときでした。

他にも、館外研修で「触れる美術展」に出かけたり、近所に設営された相撲部屋の朝稽古を見学するなど、貴重な体験もさせていただきました。

訓練の成果<あきらめない姿勢>

4ヶ月の訓練を終え、わずかな自信と勇気を得た私は、障害があることを前提に働く職場を探そうと決意しました。

ある日、ハローワークで教育委員会が障害者を対象に職員募集することを聞きました。かつて教員を目指したことのある私は心弾む思いでしたが、募集要項を見て躊躇しました。何枚もの小さな枠の書類に、詳細な履歴と作文を手書きしなければならず、私には拡大読書器を使っても容易ではありませんでした。悩んだ末、A4サイズの規定書類をA3に拡大コピーした上で拡大読書器を使って書き上げました。苦肉の策でしたが、とことん工夫する姿勢を教えてもらっていたので、あきらめずに取り組むことができました。

充実した毎日

その後、面接を経て採用が決まり、今年4月から小学校の教員補助員として勤務しています。仕事内容は多岐にわたりますが、拡大読書器を常に携帯しているので、子供たちにも目が見えづらいことを伝えています。また作業的な仕事では、正確かつ効率アップをはかるために自分なりの工夫を心掛けている。時には、子供たちに点字を教えることもあります、センターで学んだことを随所に活かしながら充実した毎日を送っています。

最後になりますが、センターで過ごした日々のお陰で、私は新たな道を切り拓くことができました。お世話になった職員の皆さんには、心から感謝しています。



地域貢献と実践力の習得の場としての臨床実習

—当センターにおける臨床実習の役割—

1年間で約130名の施術経験

昨年度、当センターでは約130回(授業時数:約300時間)の臨床実習を実施し、約600名の患者さん(実習協力者)に御来所いただきました。在籍利用者1名あたりで換算すると、約130名の患者さんへの施術経験を積んだことになります。御協力いただいた患者さんには、心より御礼申し上げます。来所される患者さんの多くは、西区や糸島市をはじめとした近隣地域の方々です。臨床実習を通して、利用者は貴重な実践経験を積むとともに、地域の方々の健康増進にも貢献していると言えるでしょう。



施術用の昇降ベッド

施術者としての実践的な学び

当センターは、視覚障害者を対象にあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師(以下、「あはき師」という。)の養成を行う機関です。1年生では、解剖学・生理学などの専門基礎科目や東洋医学などの専門科目、さらには基礎的な実技を学びます。2年生では、応用実習を通じて実践的な技術を身につけます。そして3年生になると、これまで培ってきた知識と技術の集大成として臨床実習に取り組みます。臨床実習では、教官の指導のもと、臨床の現場における施術手順や施術方法、実習記録の書き方、患者さんとの接し方などを実践的に学びます。こうした実習を通して、技術の熟達のみならず、施術者としての姿勢や心得も養われていきます。

経験豊富な8名の教官がサポート

臨床実習は4月から始まり、最初は緊張していた利用者も、回を重ねるごとに「あはき」の魅力を実感し、施術によって患者さんに喜んでいただけることにやりがいを感じるようになります。また、実習の指導にあたるのは、計8名の教官で、2名1組で利用者をサポートします。教官は医療現場での豊富な臨床経験を持ち、東洋医学・現代医学の両面から専門的かつ実践的な指導を行っています。その結果、利用者たちは様々な症状に対応できる施術力を身につけ、胸を張って卒業していきます。

実践を通じた地域社会への貢献

このように、当センターの臨床実習は「地域貢献」と「実践力の習得」の双方を実現する重要な取り組みです。今後も、地域の皆さまの健康を支えるとともに、利用者が社会で活躍できる確かな技術を習得できる場として、臨床実習の充実に努めてまいります。



当センターの
臨床実習室

— 大きな足跡をのこした江戸時代前期の鍼治療師 —

すぎやま わいち
杉山 和一

のおはなし

はなわ ほきいち すぎやま わいち
塙 保己一と杉山 和一の共通点

今回は江戸時代に活躍した鍼治療師である杉山和一をご紹介します。和一の人生は、前回(128号)でご紹介した、塙 保己一(江戸時代の大学者)と、次のようによく似ている面が多くあり、興味深いです。

- 生いたち(幼くして失明)
- 苦しい修行時代
- 努力と深い信仰心で苦難を乗り越える
- 高い技能を獲得し、その成果を広める
- 盲人組織の最高位(総檢校)に任命

生い立ち

和一は1610年に三重県の津市で生まれ、数え年7歳の頃に失明してしまいます。両親は目が見えないからといって甘やかすことはなく厳しく育てたと伝えられています。

苦難の修行時代

和一は18歳で江戸に出て鍼治療の師匠のもとに弟子入りして厳しい修行に励みます。しかしあまり手先が器用ではなかったらしく修行の成果は上がらず、苦難の日々を送ることになりました。

江ノ島の弁天さま

修行に行き詰った和一は、古くから盲人の守り神としてあがめられてきた江ノ島の弁天さまの洞窟で、断食修行をします。

しかし一週間の過酷な断食を経ても、何の啓示も得られません。失意のうちに洞窟から出てきた和一は、石につまずいて転んでしまうのですが、そのとき、和一の足に一本の松葉が刺さりました。

管鍼法

和一の足に刺さった松葉は、くるりと筒のようになつた落ち葉に巻かれていました。これを手に取ったとき、和一は「管鍼法」を思いついたと伝えられています。

「管鍼法」というのは、鍼管というガイドチューブの中を通して鍼を打つ方法です。この管を通することで、鍼を刺す正しい位置を保持しやすくなり、力加減もコントロールしやすくなるので、より痛みを感じにくい施術が可能になります。

この管鍼法は、現代の施術において、もっとも一般的に使われている技法のひとつとなっています。

将軍の贈り物

弁天さまのもとで開眼した和一は、その後も長い時間をかけて根気強く修行と情報収集を重ね、効果的な治療法を編み出しています。

腕の良い治療師として高い評判を得た和一は、4代将軍の徳川家綱、5代将軍の徳川綱吉の治療も担当するほどになりました。

綱吉は、和一の卓越した治療と人格を高く評価していました。ある日、綱吉が和一に「褒美に何かほしい物はないか?」とたずねたとき、和一の答えはなんと「目を一ついただきたく存じます」でした。

綱吉は驚きつつも機転をきかせ「目はやれぬが、一つ目という地所を与えよう」と応じたそうです。こうして和一は、本所一つ目の広い土地を将軍から贈られたのです。

鍼治講習所

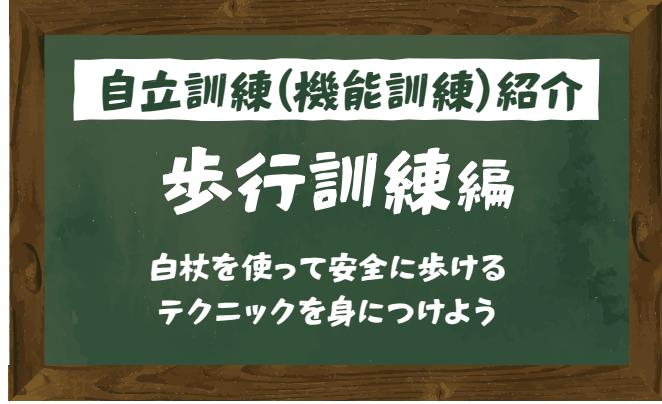
和一は、若い頃の修業で苦労した経験をもとに、
按摩、鍼、灸の技術を教科書も活用して合理的・体系的に学ぶことができる「鍼治講習所」を開設します。これは世界で初めて設立された盲人のための学校と言われています。のちにこの講習所は、綱吉から拝領した本所一つ目に移転します。

これをもとに、和一は多数の弟子(教員)を養成して日本各地に講習所を開設し、その技術を広めていくことに大きく貢献したのです。

関東総檢校

このような活躍によって、82歳になった和一は当時の盲人自治組織(当道座)の最高位である関東総檢校に任命されます。そして、その2年後の1694年に84歳でその生涯の幕を閉じました。

【参考文献】 「世界に誇れる盲偉人 杉山和一」 桜雲会 文:今村鎮夫 絵:吉澤みか
(公財)杉山検校遺徳顕彰会ホームページ <https://sugiyamawaichi-kengyou.com>



はくじょう 歩行訓練(白杖歩行)

皆さん、白杖(はくじょう)をご存じですか? そうです。漢字の通り、白い杖です。

今回は自立訓練の中でも、希望者の多い歩行訓練を紹介します。歩行訓練は、大きく屋内歩行・介助歩行・白杖歩行に分かれます。その中でも今回は白杖歩行に焦点をあて、紹介したいと思います。

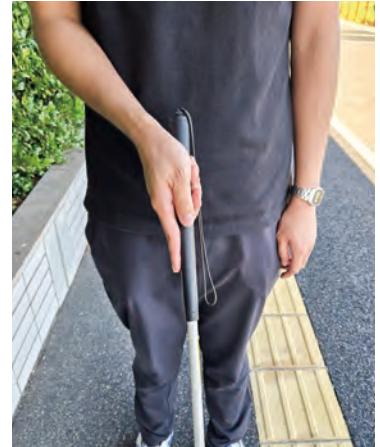
T字の体を支える白杖もありますが、センターで訓練する際はまっすぐな1本の棒タイプのものを使います。



様々な白杖(一部)



長さイメージ



持ち方

はくじょう 白杖の使い方

白杖は正中線から左右対称に、自分の体の幅よりも少し大きく振って歩きます。左右にタッチするタッチ テクニック Touch Technique、地面をこするように振るコンスタント コンタクト テクニック Constant Contact Technique(スライド法)などがあり、路面状況等により、使い方を変えていきます。



白杖歩行では特に基本姿勢や技術が大事なので、しっかりと行います。今はマンツーマンがメインですが、昔は集団で歩行訓練を行っていたようです。

フーバーケーンテクニック

ちなみに、視力センターで行っている歩行技術のほとんどは、米国のHooverさんが考案したHoover cane techniqueで、1960年代から日本でも取り入れられていたようです。こうやって聞くと、白杖歩行は歴史が深く、なんだか格好いいですね。

安全杖の基礎訓練

道具は全て手作りでした。
19時から2時間ぐらいは、職員総出で夜間歩行訓練もやっていました。

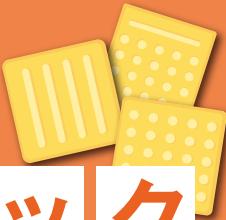
1970年代の様子▶
(創立50周年記念誌より抜粋)



おわりに

今回の記事は訓練の最初のガイダンス程度です。歩行は衝突・転落など危険を伴いますので、見えづらくて移動(歩行)に不安がある方は、ぜひ歩行訓練を受けてみてください。

視覚に障害のある方々の
安全を守る 大切な存在



点字ブロック

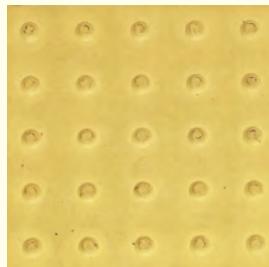
点字ブロックの種類

点字ブロックは、正式には視覚障害者誘導用ブロックと言い、2種類の形状があります。線状のものは誘導ブロックとも呼ばれ、歩行方向を示しています。一方、点状のものは注意喚起ブロックや警告ブロックと呼ばれ、対象物や危険の可能性を示すために、階段や横断歩道の手前などに設置されています。

また、黄色などの目立つ色のものが多いのは、ロービジョンの方が見分けやすいからです。



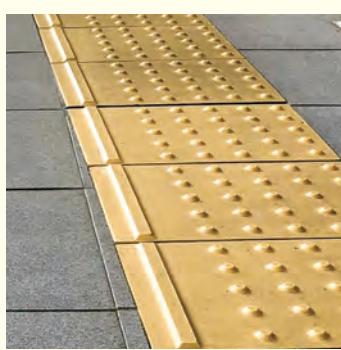
線状ブロック



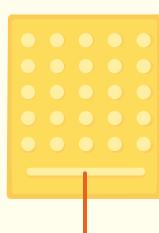
点状ブロック

番外編 「誘導？警告？」

駅のプラットホーム縁端には、点状ブロックに1本の線が追加された形状のブロックが設置されている場合があります。この線は内方線（ないほうせん）と言って、ホームの内側を示すためのものです。



▲内方線付点状ブロックが設置されたホーム



街を歩いていると足下に黄色いブロックが敷かれているのを目にすることがあります。これが通称「点字ブロック」です。あまり意識することなく通り過ぎている方も多いかもしれません、視覚に障害のある方々の安全な移動を支える上で欠かせない、とても大切な存在なのです。

エスコートゾーン

ちなみに、横断歩道にはエスコートゾーンと呼ばれる突起体の列が設置され、歩行方向を示しているものがあります。横断歩道上は手がかりになるものが少なく、歩道から逸れて交差点中央へ向かってしまうなどの危険がつきものだからです。



◀センター近くのエスコートゾーンが設置された横断歩道

点字ブロックの周囲はふさがない

このように活用されている点字ブロックなどですが、その役割を十分に果たせていない場面も少なくありません。点字ブロックの上や周辺に自転車が停められていたり、看板などの障害物が置かれていたりすると、その恩恵を受けることができません。時には転倒したり危険な状況に陥ったりすることもあります。

これらは視覚に障害のある方々が社会の中で自立し、安全に活動するために必要不可欠なものです。皆さんにはこうした意味を知っていただき、日頃から点字ブロックの上と周囲（点字ブロックに沿って、その横を歩くこともあります）には物を置かない、塞がないといった配慮をしていただければ幸いです。

一人ひとりのちょっとした気配りが、視覚に障害のある方々にとって住みよい街、安心して暮らせる社会を作る第一歩となります。

令和6年度 国家試験結果と進路状況



国家試験結果

第33回あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師国家試験での本センター並びに全国結果については以下のとおりです。

【福岡】新卒

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あマ指師	3	2	66.7	1	0	0.0
はり師	3	2	66.7	3	1	33.3
きゅう師	3	2	66.7	3	1	33.3

【全国】新卒

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あマ指師	1,032	977	94.7	128	34	26.6
はり師	3,169	2,831	89.3	981	235	24.0
きゅう師	3,168	2,846	89.8	926	222	24.0

【自立支援局各センター】合計

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
あマ指師	15	10	66.7	1,160	1,011	87.2
はり師	21	11	52.4	4,150	3,066	73.9
きゅう師	20	12	60.0	4,094	3,068	74.9

【福岡】既卒



進路状況

令和6年度卒業生の進路状況については、以下のとおりです。

進路	人数(人)
就職	1
就労活動 継続中	0
進学	2
うち臨床研修コース	(1)
自宅学習	1
うち再理療教育(予定)	(1)

()書きは内数

職員撮影



夕焼けに染まる秋の今津干潟



瑞梅寺川(ずいばいじがわ)が今津湾に流れ込む河口の干潟で、クロツラヘラサギ、ツクシガモなどの珍鳥のほか、カモ、サギの仲間など多く

の野鳥が渡ってくる水鳥の宝庫です。また、カブトガニの産卵地としても有名です。
(福岡市西区ホームページ「西区の宝」)

職員の異動

令和7年3月31日

■任期満了

氏名	職名
山下 智子	庶務係長
谷岡 和司	生活支援員
青柳 達也	教官

令和7年4月1日

■転入

氏名	職名	前職
谷内 一夫	所長	厚生労働省
寺上 省吾	庶務課長補佐	国リハ
相田 康平	会計係	国リハ
嘉村 崇史	主任心理判定専門職	神戸センター
関口 弘一	機能訓練専門職	国リハ



新職員の紹介

庶務課

寺上 省吾

4月1日付けで国リハより赴任しました庶務課長補佐の寺上(てらうえ)です。福岡センターの勤務は初めてとなりますが、地元が福岡市で28年間住んでいましたので、ようやく戻ってきたという感覚です。福岡を離れている間に街並みが随分変わったなと感じました(特に糸島は私が知っている糸島ではなく衝撃的でした)ので、これからも色々なところに調査?に行きたいと思っています。



支援課

嘉村 崇史

4月1日付けで神戸視力障害センターより赴任しました嘉村です。

福岡視力障害センターには、10年ほど前に2年ほど赴任していたことがあります、食べ物が美味しく、人情味にあふれたセンターだと記憶しています。



支援課

相田 康平

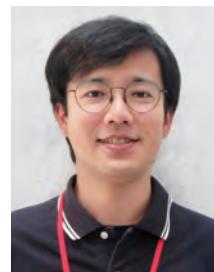
4月に国リハより赴任しました庶務課の相田です。所沢の前は長野県で学生生活を送っていましたが、その頃からずっと海なし県にいるので海に近い福岡センターの景色が美しくて新鮮に感じます。転勤も福岡も初めて。瑞々しい若者(自称)なので、バリバリ熱意と元気のもとで仕事に取り組む所存です。これからよろしくお願ひいたします。



支援課

関口 弘一

3年ぶりに戻ってきました。福岡センターでの勤務は2回目です。1回目は1年ちょっとしかいなかつたのですが、楽しかった記憶ばかりです。



当時はコロナ真っ只中で外出がはばかられる時代でしたが、今回は九州の名所などを巡りたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

利用者募集

当センターでは、下記の通り利用者を募集しています。

提供する施設障害福祉サービス

自立訓練(機能訓練)

利用開始日：随時(原則として月曜日) 利用申請受付：随時



サービス内容

- ◆ 歩行訓練
- ◆ 日常生活訓練(身辺処理・調理等)
- ◆ 点字訓練
- ◆ ロービジョン訓練(視覚的補助具の紹介)
- ◆ パソコン訓練
- ◆ スポーツ訓練
- ◆ タブレット訓練
- ◆ 感覚訓練
- ◆ その他、教養を高めるレクリエーション等

就労移行支援(養成施設)

利用開始日：毎年度 4月上旬 利用申請受付：2月末まで

サービス内容

- ◆ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた理療教育
- ◆ 学習支援、国家試験対策、就労支援、卒後支援等



主な学習内容

①基礎分野

人文科学概論
社会科学概論
自然科学概論 他

②専門基礎分野

解剖学、生理学
衛生学・公衆衛生学
病理学、臨床医学総論 他

③専門分野

東洋医学概論、経絡経穴概論
あマ指の歴史と理論
はりきゅうの歴史と理論
臨床実習 他

※通所が困難な方に宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

※自立訓練と就労移行支援には、上記のほかに次のようなものも含まれています。

- ◆ 社会的支援、心理的支援、健康管理、食事の提供、栄養指導の実施
- ◆ 評価及び個別支援計画の策定と交付
- ◆ 各種行事の実施、自治会やクラブ等の活動支援

利用に関する問い合わせ

サービス利用や利用料等の詳細、パンフレット、「輝く自分でいるために」(小冊子)等の送付、施設利用のお申込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問合せください。

電話 092-807-2844(支援課直通)
092-806-1361(代表)

Eメール shienka-f@mhlw.go.jp

ホームページ <https://www.rehab.go.jp/fukuoka/>



ホームページ
二次元コード

輝く自分でいるために
～視覚障害者として働く、視覚障害者と働く～

国立障害者リハビリテーションセンター
自立支援局・福岡復元・福岡視覚障害センター

当センターは日常生活に必要な諸技術を身につけるための自立訓練(機能訓練)とあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成を行つための就労移行支援(養成施設)を提供する指定障害者支援施設です。